

浮金小だより



発行：令和元年8月30日（金）

文責：浮金小学校長 松崎 健一

8月23日、転入生1名を加えた38名全員がそろっての2学期をスタートすることができました。

始業式の中では、今年度のテーマである「元気で明るい自分たちの浮金小学校を創る」について、子どもたちに、どう取り組んでいくのかを問いかけ、どんな姿を追求すれば元気で明るい浮金小となるのか、一人一人が具体的に目標を定めて頑張ることを話しました。また、目標を達成するために「気づき、考え、実行する」を粘り強く繰り返すことも伝えました。2学期は、校内水泳記録会・陸上記録会・祖父母参観日・音楽祭・学習発表会など様々な行事があります。その際に、元気で明るく生き生きと活動する子どもたちの姿をお見せすることができるよう、全教職員と子どもたちが一丸となって学校創りに努めていきます。



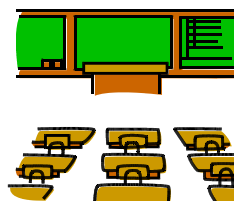
3年生に遠藤弥武さんが転入しました。よろしくお願いします。

教室を移動しました

5・6年教室と2階の学習室1を入れ替えました。これまで5・6年教室だった1階奥の教室を学習室1として、2階の学習室1を5・6年教室として使用します。

教室を移動した理由としては、

- ① 3年生が2階まで移動せずに落ち着いて学習できるよう環境を整えたいこと
 - ② 5・6年生は2階の特別教室を使って、分かれて授業することが多いこと
- などです。5・6年生にとっては年度途中での教室移動となりましたが、子どもたちのよりよい学習環境を第一に考えての判断ですので、ご理解ください。



雨の中のPTA奉仕作業



8月22日、時折強く雨が降る中でしたが、本年度2回目のPTA奉仕作業を実施しました。早い方は5時半から草刈りのエンジンをかけ作業していただきました。天気の良い中で申し訳ありませんでしたが、お陰様で校舎周辺はすっかりきれいになりました。ありがとうございました。



子どもたちはすっかい学校生活モードへ！

今週も子どもたちは元気に登校し、朝から意欲的に活動しています。いくつか紹介しましょう。5・6年生は町の陸上記録会に向けて朝練開始です。火曜日のNIEタイムでは、自分が選んだ新聞記事を読んで自分の考えを書き込んでいました。緑のカーテンとして植えていたフウセンカズラの種取りをして楽しむ姿も見られます。



進んで運動する姿が見られます。頼もしい！



自分の考えを短時間で書けるようになってきましたね。



もう、種を取ることができんだね。今年もいっぱいとれるかな？



ガンバレ浮っ子！！

校内水泳記録会

8月29日に、B&Gを会場に校内水泳記録会を実施しました。子どもの上達ぶりには驚きます。どんどん泳げるようになっていて、精一杯頑張る姿がたくさん見られました。これからも、「練習すれば必ずできる。」という強い気持ちを持ち続けてほしいと思います。浮金小らしい素敵な記録会を子どもたちが創ってくれました。



温かいたくさんの応援ありがとうございました。

授業中の「姿勢」と「学力」との関係は・・・

1学期の授業の様子を見ていて、子どもたちの姿勢の悪さが気になりました。その都度注意しますが、思うように改善しませんでした。そこで、姿勢の悪さが何をもたらすのかに**気づかせる**ことが肝心であると考え、背骨の写真などを準備し養護教諭と協力して次のことを指導しました。

- 小学生の子どもは骨は成長期であり柔軟性がある。この時期に悪い姿勢の習慣がついてしまうと、ゆがんだ骨格となってしまう。
- 姿勢の悪さが、こんなことにつながる。

- ・スタイルが悪くなる
- ・疲れやすくなる
- ・視力がおちる
- ・胃腸が弱る（便秘）
- ・体力が低下する
- ・頭痛
- ・肩こり
- ・太りやすい
- ・肌が荒れる
- ・集中力が持続しない
- ・学力が低下する
- など



さて、姿勢の悪さがもたらす影響について話をしたので、姿勢を良くすることの大切さに子どもたちは**気づいた**はずですが。後は一人一人が授業中での自分の姿勢について振り返り、どうすればよいかを**考え**、どう**実行する**かです。根気よく**良い姿勢の大切さに気づく**よう指導していきます。

校長室より

私は、小学3年生ごろから上履きは自分で洗っていました。母親が洗ってくれなかったんです。

28日の3・4年生の給食の時間のことです。子どもが使うエプロンのひとつが転がり落ちて、給食台を拭くバケツに入ってしまう濡れてしまいました。誰かが意地悪したのではなくエプロンの山になっていたものが崩れて、たまたまそうなったのです。子どもが職員室へ来て、「エプロンが濡れてしまいました。」と、横山先生に言いに来ました。ぬれたエプロンを何とかして欲しいと思っているのでしょうか。受け取った先生は洗濯しようとしていました。私は、その濡れたエプロンを持って3・4年教室に行き、「これは横山先生が洗濯しなくてはいけないのかな？」と問いました。すると「それじゃ、家に持ち帰ればいい。」と言うので「家の人で洗濯しなくちゃいけないの？自分たちでどうにか出来ないのかな。」と問い返します。ある子が「きれいな水に落ちて濡れただけだから、乾かせばいい。」と言うので、「それなら自分たちで出来るよね。」と。(省略)

子どもが出来ることは全て自分でやらせるべきです。何でも大人にしてもらおうという、依存し

た考え方ではいけません。私は、学期の初めということもあったので良い機会と思い話をしに教室を訪問したのです。

給食後すぐに動きがありました。子どもが「濡れたエプロンを干すハンガーを借してください。」と横山先生のところに來たのです。エプロンが干された教室で5時間目の勉強をしている子どもたちを見ながら、「ガンバレ」と声をかけたくくなりました。



最初の話ですが、大きく間違っていました。本当は、母親が“洗ってくれなかった”のではなく、“自分の物は自分で洗う”ことを教えてくれたのです。正直、私は靴を洗うのがおもしろくて、お風呂場で靴用のタワシを使い泡だらけにしなが楽しんで洗っていたのを思い出しました。

子どもが出来ることはたくさんあります。それをさせずに手を差し伸べるのは教育とは言えません。子どもが困ってしまい頼ってきたときに、共に考えてあげればいいのです。